

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2022年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門	乳児保育 2	選択	前期	35名
専門	幼児と言葉	選択	後期	35名
専門	教育実習指導(幼稚園)	選択	前期	35名
専門	子ども家庭支援の心理学	選択	後期	35名
専門	ゼミナール 1	必修	前期	4名
専門	ゼミナール 2	必修	後期	4名
専門	保育基礎 1	必修	前期	42名
専門	保育基礎 2	必修	後期	40名

*科目区分:「教養」、「専門」、「教職」の3つから指定すること。

*種別:「必修」、「選択」の2つから指定すること。なお、選択必修は「選択」とする。

2. 教育の理念

現代社会において乳幼児期の社会情動的スキルの育成は、保育現場で意識的に行うことが求められており、質の高い乳幼児の発達支援が重要視されている。保育者は、子どもが自分の能力を発揮できるよう環境構成を行うこと、さらに子どもが思考を広げることができるよう、多様な視点から物事を捉えることが重要であると考え。担当科目において、これらのスキルが身に付くよう指導することを目標としている。

3. 教育の方法

授業時に、実際の保育現場での事例を紹介し理論と結びつけて解説をしている。さらに、保育現場で起きた課題を提示し、まず個人で問題解決に向けての行動を考える時間を取り、その後、グループワークにて発表するようにしている。また、学生からの質問については授業後もしくはメールを用いて個別に対応し、有益なものに関しては受講生が周知できるよう授業内で紹介している。

4. 教育の成果

授業についてはおおむねわかりやすく、役に立ったとの評価が多かった。乳児保育 2、幼児と言葉の授業では、保育現場での事例を紹介し検討したことにより、保育職へのイメージが付きやすく、保育者としての子ども理解につながったと考えられる。子ども家庭支援の心理学では、先行研究の紹介をし、保育現場ではどのように活用できるのかについて学生と共に考えた。保育現場

での事例に結び付けて検討することは、保育職に就く学生の学びに有効的であると考えられる。

5. 今後の目標

保育者として必要なスキルとして、子どもが自分の能力を発揮できるよう環境構成を行うこと、さらに子どもが思考を広げることができるよう、多様な視点から物事を捉えることを身に付けることを目標としている。このことから、事例検討を通して子ども理解について多角的な視点をもつことと共に、子ども理解に基づいた環境を構成する技術も必要である。実践演習を用いて、立案に基づいた、保育環境の構成を行う機会を増やすことを目標とする。さらに、学生が保育環境を構成した場において、子どもがどのように活動をしていくのかを観察する機会を設け、学びを深めていけるよう指導していきたい。

6. 根拠資料（準備しておく）

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書
- その他（FWJConLine「乳児保育2」「幼児と言葉」「教育実習指導（幼稚園）」「子ども家庭支援の心理学」）コース等）